非バラモン／ドラヴィダ運動再考—誰による誰のための運動か

志賀美和子（専修大学文学部）

1. 非バラモン／ドラヴィダ運動とは？

＜基本的性質＞

- 非バラモン諸カーストがカーストの枠組みを超え、インドの先住民族ドラヴィダ人としてのアイデンティティをもって団結し、バラモンに対抗しようとする運動。

＜概要＞

- 第一期：文化・教育推進運動（19 世紀後半～1900 年代）
  - ➢ インド学の影響：タミル・ルネサンス、カースト制度起源論
  - ➢ 公職を独占していたバラモンへの非バラモン上層カーストの羨望
  - ➢ 英語教育奨励活動
- 第二期：政治活動への参入（1910 年代～1920 年代）
  - ➢ 非バラモン宣言、正義党結成
  - ➢ モンファド改革：州レベル政治の門戸開放、Legislative Council 選挙
  - ➢ 非バラモンの留保議席実現→正義党政権
- 第三期：社会改革運動（1920 年代半ば～1940 年代）
  - ➢ カースト差別批判、ヒンドゥー教批判、宗教批判、共産主義へ
  - ➢ 反ヒンディー語闘争、ドラヴィダ（タミル）分離主義
- 第四期：州政治の「主流」へ（1960 年代～）
  - ➢ ドラヴィダ進歩連盟 DMK と全インド・アンナー・ドラヴィダ進歩連盟 AIADMK の二大政党制へ

2. なぜ今非バラモン／ドラヴィダ運動か

- 「不可触民制 Untouchability」問題のクローズアップ
  - ➢ 「不可触民」への暴力（1990 年代増加？）
  - ➢ 「不可触民」の抵抗：非合法（暴力）＋合法（ボイコット、政党結成）
- 元「不可触民」を包括する新アイデンティティ？：Adi-Dravida から Dalit へ
  - ➢ 「Adi-Dravida（原ドラヴィダ人）」＝非バラモン／ドラヴィダ運動の基本思想を体現するキーワード。＜ドラヴィダ民族はインド先住民であったが、侵略民族アーリヤ人が創出したカースト制によりシュードラとされ、特に最後まで抵抗した者が「不可触民」にされた＞と主張してきたため。
  - ➢ 非バラモン／ドラヴィダ運動に対する「不可触民」の評価が変容？
- 非バラモン運動再検討の動き
  - ➢ 〔Geetha&Rajadurai 1998〕〔Pandian 2007〕〔Anandhi 2009〕

3. 非バラモン／ドラヴィダ運動をいかに評価するか——先行研究

- 近代国民国家とドラヴィダ・ナショナリズム←DMK 台頭
  - ➢ 〔Hardgrave Jr. 1965〕多元的新設国家は国民統合問題を抱える→文化ナショナリズムは原初的感情からアイデンティティ拡大へ、民主政実現・国民統合への移行手段として有効→ドラヴィダ運動はタミル・ナードゥという地域のコミュニティ意識形成に寄与
  - ➢ 〔Barnett 1976〕文化ナショナリズムを国家統一への過渡的手段と見なさず。サブ・ナショナリズムの並存・交渉・調整こそが国家統合を可能にする。→ドラヴィダ運動を 1920 年代にまで遡り、非バラモン運動はバラモン中心の会議派と自治連盟への対抗から始まったが、シュードラ・非バラモンとドラヴィダ人とをシンボル上同義とし、のちのドラヴィダ・ナショナリズムの基盤を形成したと評価。　→DMK が支持基盤を非バラモン後進階級にまで広げたとして評価。
  - ➢ 地域（サブ）ナショナリズムとしての側面に着目。反カースト、反宗教などの側面は軽視。
- 政治制度の所産としての運動
  - ➢ 〔Irschick　1969；1986〕イギリス人官僚の反バラモン／ナショナリズム感情→1919 年統治法改革、地域主義政党としての正義党を扶助→中央政治＝バラモン（会議派）、地方政治＝非バラモン（正義党）に分化、正義党から会議派への流入増加　←イギリスとの関連性で運動を描く。制度がインド人の運動を方向づけるとする。思想の役割軽視。
  - ➢ 〔Baker & Washbrook 1975〕〔Washbrook 1975〕〔Baker 1976〕派閥理論、思想の役割否定。「正義党の社会改革運動は権力闘争の副産物」
- 非バラモン運動とその思想
  - ➢ 〔Arooran 1980〕19 世紀のタミル・ルネサンスとドラヴィダ・ナショナリズムの関連性を分析（ドラヴィダ・ナショナリズムのシンボルはタミル語であったとの認識のもとタミル語を巡る動向を詳細に紹介）、ドラヴィダ・ナショナリズムは正義党のもとで非バラモンの文化アイデンティティを再確認するものとして発展したとする。
  - ➢ 〔Mangalamurugesan 1979〕初めて非バラモン／ドラヴィダ運動の一潮流である自尊運動を中心的に取り上げ、その活動と思想の変質を体系的に紹介。←運動の多面性に注意を喚起。ただし「思想が変質した」と捉える。
- 左派からの批判
  - ➢ 〔Ramamurthi 1987〕正義党はイギリスの搾取を支持した地主政党。Baker や Irschick がいう「バラモン対非バラモン」という社会状況はなし。コミュナル代表制やドラヴィダナードゥ要求は大衆支持を取り付けるためのスローガン。EVR の自尊運動は、カースト廃止は唱えたものの内実は反バラモン、非バラモン上層の差別性には言及せず。反ヒンディー語闘争を機に正義党党首を引き受けた時点で EVR の自尊運動は終了。ドラヴィダ・イデオロギーは正義党のネガティヴイメージを払拭するため。第二次大戦期間中も独立より社会改革を優先。DMK は社会主義政党と言いながら資本家を代弁。←自尊運動も労働者階級意識を涵養せずカースト問題に還元したと批判。
- 社会改革運動としての非バラモン運動再評価
  - ➢ 〔Geetha & Rajadurai 〕不可触民解放運動の主要人物として Iyothee Thass と Periyar を位置づける→Periyar にとって最重要課題は不可触民制の廃止（非バラモン・カーストの地位改善のためにも不可欠）→社会主義は Samadharma（平等の正義、Varnadharma の対置概念）を補強するものであり、経済的不平等もカーストに還元。

第 6 回 FINDAS 研究会・インド社会運動研究会（代表：石坂晋哉）
2011 年 11 月 23 日＠東京外国語大学本郷サテライトキャンパス

- 〔Pandian 2007〕非バラモン運動の中でも自尊運動と EVR を評価。「バラモン」「非バラモン」は実際のカーストではなく象徴。「バラモン」は Hinduism、 Indian Nation の比喩→EVR は、この代替可能な三つの要素を駆使してバラモン批判＝ヒンドゥー教批判＝インド・ナショナリズム批判→代替可能アイデンティティとしての「バラモン」は、対する劣勢化された多様なアイデンティティ（ジェンダー、職業、言語、地域）の歴史的ブロック形成に寄与。つまり、自尊運動において、権力保持者の実際のカーストは問題ではなく、権力を行使することが「バラモン的 Brahminic」。

4. 問題点と課題—誰による誰のための運動か

- 運動参加者、受益者／疎外者の分析欠如
  - 指導者によって「非バラモン」という範疇に糾合された「静かならざるマジョリティ」の中に「沈黙を強いられたマイノリティ」が存在することは、思想分析だけでは看過
    - 〔Gorringe 2005〕〔Viswanathan 2005〕ダリトの現状
    - 〔Anandhi 2009〕ダリト女性：ドラヴィダ／タミル民族内部平等神話により二重に抑圧された存在→逆手にとって生きる戦略
- 共時的多面性の軽視、各研究者の関心に基づく一面的評価
  - 時期区分の陥穽：多面的運動の場合（1 での区分＝指導層が強調した面が基準）
  - どの面を有益とし前面に出すかは運動参加者／活用者の選択にゆだねられる
- 比較の視点の欠如
  - 他地域の動向、全インド的背景と位置づけ
- 課題
  - 非バラモン／ドラヴィダ運動の影響を、運動参加者、受益者／疎外者などの複数の視野から分析評価
    - 社会改革運動・思想
    - 政治運動・制度
  - 全インド的動向との共通性、独自性
    - 1990 年代自由化の影響
    - BSP の動向
    - 改宗仏教徒の動向

主要参考文献

- Arooran, K.N., 1980, *Tamil Ranaissance and Dravidian Nationalism 1905-1944*, Madurai: Koodal Publisheers.
- Baker, C.J. & D. A. Washbrook, 1975, *South India: Political Institutions and Political Change 1880-1940*, Delhi: Macmillan.
- Baker, C. J., 1976, *The Politics of South India 1920-1937*, New Delhi: Vikas.
- Barnette, M. R., 1976, *The Politics of Cultural Nationalism in South India*, Princeton: Princeton University Press.

第 6 回 FINDAS 研究会・インド社会運動研究会（代表：石坂晋哉）
2011 年 11 月 23 日＠東京外国語大学本郷サテライトキャンパス

- Diel, A., 1978, *Periyar E. F. Ramaswami: A Study of the Influence of a Personality in Contemporary South India*, Bombay: B. I. Publications.
- Geetha, V., and S. V. Rajadurai, 1998, *Towards a Non-Brahmin Millennium: From Iyothee Thass to Periyar*, Calcutta: Samya.
- Gorringe, H., 2005, *Untouchable Citizens: Dalit Movements and Democratisation in Tamil Nadu*, New Delhi: Sage.
- Gorringe, H., 2006, "'Banal Violence'? The Everyday Underpinnings of Collective Violence," *Identities: Global Studies in Culture and Power*, 13, pp. 237-260.
- Hardgrave, R. L. Jr., 1965, *The Dravidian Movement*, Bombay: Popular Prakashan.
- Irschick, E. F., 1969, *Politics and Social Conflict in South India: The Non-Brahmin Movement and Tamil Separatism, 1916-1929*, Bombay: Oxford University Press.
- Irschick, E. F., 1986, *Tamil Revivalism in the 1930s*, Madras: Cre-A.
- Mangalamurugesan, N. K., 1979, *Self-Respect Movement in Tamil Nadu 1920-1940*, Madurai: Koodal Publishers.
- Pandian, M. S. S., 1992, *The Image Trap: M G Ramachandran in Film and Politics*, New Delhi: Sage.
- Pandian, M. S. S., 2007, *Brahmin and Non-Brahmin: Genealogies of the Tamil Political Present*, Raniketh: Permanent Black.
- Rajaraman
- Ramamurthy, P., 1987, *The Freedom Struggle and the Dravidian Movement*, Hyderabad: Orient Longman.
- Viswanathan, S., 2005, *Dalits in Dravidian Land: Frontline Reports on Anti-Dalit Violence in Tamil Nadu (1995-2004)*, Pondicherry: Navayana.
- Washbrook, D. A., 1975, *The Emergence of Provincial Politics: The Madras Presidency 1870-1920*, Cambridge: Cambridge University Press.